

銀座水族館 (七つの海の魚および水産切手)

—(18)—

東京支店 神原 勇

フグ目 モンガラカワハギ科 クマドリ

学名: *Balistapus undulatus*

英名: trigger fish

モンガラカワハギ科の魚はモンガラ(紋柄)という呼び名の示すように、はでな斑紋や色彩のものが多い。このようにはでな目立つ斑紋や色彩をしている理由はつぎのように推測されている。すなわち二枚貝をかみくだくような固く鋭い歯をもっているため、他の魚類・甲殻類・小動物等に致命的な傷を負わすことが出来るので、殊更その存在を誇張するように積極的に示しているもので、他の魚類が手出しができないという説で、口先がその輪かくをはっきりと示す模様でできているという事実からも説明される。

インド洋・太平洋の暖海の岩礁地帯に分布しているが、大西洋には比較的少ない。沖合の流れ藻や浮游物のまわりに生活する種類のもは盛夏の候可成りの高緯度海域に出現するが、一般的に日本近海では千葉県以南に分布する。

体形は隋円形または角のとれたひし形をしていて左右に平たい。腹ビレは左右の棘が合わさって1本となって鉄砲の引き金のようにになっているため英語では trigger fish (引き金魚) と呼んでいる。

第一背ビレは3本の棘から出来ていて前側の1本が太く後側の2本はやや小さめで、前方より順々に折りたたんで背中のくぼみの中に格納するこ

とが出来るとが出来る。

口は愛くるしいおちよぼ口であるが、それに合わないような鋭く固い歯が上下に各々8本づつあって、割箸ならば簡単にかみくだいてしまう。

あまり多くはないが海水を飲みこんで、おちよぼ口より吹き出すことができるので砂泥地の中にひそみかかっているエビ・カニ類・二枚貝のほか小動物などを海水を吹き出して砂をはらいのけ鋭い歯でかみくだき食べる。

泳ぎ方はフグに似ていて体をあまり動かすこともなく、第二背ビレ、しりビレ、尾ビレ、胸ビレを優雅にかつ巧みに動かして静かに泳ぎその速力はむしろおそい方である。強い魚やダイバーに襲われたときは、泳いで急速に逃げ廻るが近くの岩の穴か、さんご礁の隙間に頭からもぐり込む。普通の魚類ならば必ず穴や隙間の中で、方向転換をして敵の方に向けて警戒の態勢を示すものであるが、モンガラカワハギ類の場合は頭をつつこんだまま尾を相手に向け、第一背ビレの棘や腹ビレの棘をつかい棒にして、尾ビレをつかんでも簡単に引っぱれないが各々の棘をたたんでやると引き出すことができる。人間以外ではこのような動作はできないので、自然界におけるモンガラカワハギの防衛態勢は完全であるといつて過言ではないだろう。

フグ目 モンガラカワハギ科 クマドリ

学名: *Balistapus undulatus*

英名: trigger fish

太平洋・インド洋ノ暖海、岩礁地帯ニ分布スルガ、大西洋ハ比較的少イ。モンガラカワハギ科ノ魚ハモンガラ(紋柄)トイウ名ノネズキウ、派手ナ斑紋又色彩、モノガ多イ。鋭イ歯ヲモケサンゴ礁ノ隙ノ甲殻類・小動物・魚類ヲ捕食スル。



ポーランド - 1967



ベルギー - 1968



エチオピア - 1970



イスラエル - 1963



パナマ - 1968



仏領ソマリア海岸 - 1959